

私がなぜ現在の科目を選んだか

## 「脳神経外科」

信州大学医学部脳神経外科学講座  
堤 圭 治

なぜ脳神経外科を選んだのか。興味の始まりは単純明快、「脳神経外科って、響きが格好良い」でした。学生時代からのその想いに素直なまま、臨床研修医時代は2つの病院で脳神経外科を選択し研修をさせていただきました。一般的に脳神経外科と聞くと「難しい」、「大変だ」と言ったnegativeな単語が連想されることが多い様に思います。御多分に洩れず、脳神経外科も臨床研修制度が始まって以降、敬遠される科の1つとなっています。確かに、忙しくて大変な科です。しかし、手術・外来・救急と忙しい業務を飄々とこなし、患者さんと全力で向き合い、更に研修医教育にも情熱を注いで下さった脳神経外科の先生方を身近にみて、より一層格好良さへの憧れが増したように思います。

私がなぜ現在の科目を選んだか

## 「産婦人科」

信州大学医学部産科婦人科学講座  
谷 野 静 絵

私が医学部進学を決めたのは、小児科医になりたかったからでした。子供の頃から、「自分はこんなに元気で何でも手に入って幸せなんだ。その分、病気があったりお金がなくて勉強できないような子供たちを幸せにする手助けをしなければならない」と、小学校の先生か小児科医になりたいと思っていました。中学、高校と進学するうちに生物や人体に興味を持ち、小児科医にしようと決めました。

医学部に入り、いろいろな科の勉強、実習をするようになってからは手術にも惹かれ、小児と関わる外科系の科という意味で産婦人科もいいな、と思うようになりました。初期研修中は、産婦人科は特に過酷な労働状況と世間で叫ばれ、当然尻込みもしましたが、産婦人科をやりたいような気もします、なんて口に出したのが最後、内科・外科などの指導医からも、スタッフ

結局、臨床研修が終了すると、迷うことなく脳神経外科に入局しました。実際に脳神経外科医になってみると、想像以上に仕事は大変でした。日本の脳神経外科は非常に守備範囲が広く、手術さえやっていたら良いというわけにはいきません。脳血管障害、脳腫瘍、脊椎・脊髄、外傷、機能的脳神経外科の手術、血管撮影、血管内治療をはじめ、脳血管障害を中心とした内科的管理、救急業務等々、仕事は多岐にわたります。「さすがに、きついな」と思うことも時にありますが、それが逆に遣り甲斐を感じる部分でもあります。

時に脳は宇宙に準えられますが、脳は本当に神秘的で深遠で、まだまだ未知なる領域です。日々の忙しい業務の中で、脳の脆さ、強さ、難しさを実感しながら、深遠なる世界に全力で対峙することに喜びを感じています。

脳神経外科医として6年目となり、少しずつ出来ることも増えてきましたが、まだまだ未熟者でやるべきことは山積です。先輩方に少しでも近づき、思い描いた格好良い脳神経外科になるべく、これからも日々精進を重ねていきたいと思っています。

(信大平17年卒)

からも、「えらい！産婦人科に進むならうちの科には勧誘できないね、頑張って」「私がお産するときはよろしくね」とものすごく喜ばれ、期待されてしまいました。そして、内科研修中に受け持った神経疾患の女性はやっと聞こえるくらいの絞り出すような小声で、「先生は産婦人科の先生になるのね。女性の味方…頑張って」と言ってくれました。その方は亡くなってしまいましたが、こんなにも私が産婦人科医になることを望んでいる人がいるなら頑張らなきゃいけないかな、と思いこの道を選びました。

昔想像していたように直接子供と関わることはありません。でも、様々なトラブルを乗り越えて元気な赤ちゃんが生まれてきた時は本当に嬉しくて、あなたのためにあなたのお母さんは本当に頑張ったんだよ、たくさん人の力があってあなたは生まれてきたんだってことを、大きくなったら教えてあげたい、と思うのです。また一方で婦人科の癌の患者さんの治療に苦慮しながら最後まで向き合っていくのは、その人の人生の大きな一部分となれたという意味で医師冥利に尽きるところなのかな、と思います。いろいろな経験を積み、もっともっと産婦人科の奥深さ、面白さを知っていきたいです。

(信大平20年卒)